

紀南病院
広報誌

つながり

第12号

平成20年
4月発行

病院スローガン(5月～7月)

癒^{いよ}される あなたの仕草と 本当のやさしさ

発行: 紀南病院組合立紀南病院 〒519-5293 三重県南牟婁郡御浜町大字阿田和4750 ☎05979-2-1333(代) renkei@kinan-hp-mie.jp(地域連携室)



内科初診は紹介状が必要に

紀南病院では、昨年3月末に脳外科、神経内科の医師4名が三重大学に引き上げとなり、その影響で内科の外来・入院患者が前年より約20%増加しています。また、昨年12月に医師1名が退職となり、外来・入院・療養病棟・透析・宿日直等、医師の負担が増大しています。そこで負担軽減のため平成20年1月28日から当面の間内科初診に関しましては、医院、診療所等の紹介状を必要とさせていただきます。予約外来、救急につきましては従来どおりの対応をさせていただきます。住民の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

紀南病院独自の 医師研究資金貸与 制度が発足

医師確保及び質の向上に資するため、3年間の紀南病院勤務を条件に研究資金300万円を貸与する制度が4月に発足しました。貸与された資金は3年間勤めた場合、返還が免除となります。

平成19年度タウンミーティング 『紀南の医療を一緒に考える会』報告

全国的に医師不足・救急医療体制崩壊・患者の医療に対する意識変革（コンビ二受診等）・後期高齢者医療制度導入等、医療を取り巻く環境は近年激変しています。紀南地域も例外ではありません。地域中核病院である紀南病院では内科医師の関連病院からの撤退、泌尿器科・脳神経外科・神経内科の撤退。救急体制では救急車の利用件数及び軽症利用者の増加。（軽症とは入院を要しない患者）そのため、紀南地域では限られた医療資源を有効活用していくために関係部署との連携の強化と同時に、限りある医療資源を住民の皆さんへ理解していただきながら、住民の皆さんが主体となって地域医療を支えていくシステム作りを目的として、タウンミーティングを開催しました。

行政・医師会・消防・紀南病院が一体となり、住民との意見交換を紀南地域6箇所（新鹿・紀和・尾呂志・神志山・大里・浅里）に赴いての出前式『タウンミーティング』・御浜町くろしおホールでの講演式『タウンミーティング』を行いました。住民の皆さんの不安の解消に向けての詳細な説明や解決策をみんなで考える機会となりました。出前式では座談会形式をとり、気軽な雰囲気の中で有意義な時間を過ごすことができました。住民の参加数は191名（全会場）。関係職員約200名で、総勢約400名のミーティングになりました。講演式では各部署からの、この一年の取組み等の発表があり、約100名の参加者がありました。

ミーティングの感想は大変よかった・よかったが90%以上あり、『先生方にここまできてくださったことに感謝します。』『先生は普段はこんなことを考えているのか』等の白衣を脱いだ自然体の先生に触れることができたことが好印象であったようです。『お互いを知ることから始まる』ことが、このタウンミーティングの成果であったように思います。

また、このミーティングには三重大学地域医療学講座武田裕子教授・東京大学アフガニスタン医師・研修医・医学部学生等のゲストも多数参加していただきました。武田教授からは『このミーティングの取組みは全国を探してもない、画期的な事業です。医師が来る若しくは育つ・病院が発展する・医療が充実するには地域の皆さんの力が必要です。』との意見をいただきました。

地域住民と一緒に医師会・消防・行政及び紀南病院が中心に地域医療の魅力を追求し、全国にはない紀南地域医療を展開していくために今後も様々な企画を予定しています。ぜひ、気軽に参加してください。楽しいミーティングの空気を一緒に感じましょう。



アルコールについてのお話②

元紀南病院内科医長 鈴木 孝明



前回に引き続き、アルコールについてのお話です。昨年7月に紀南病院で「第22回三重県アルコール関連疾患研究会」が開催されました。この研究会は12年に発足し、県内各地域病院とアルコール専門医療機関との連携を深める働きをしてきました。実はこの試みは全国でも珍しく「三重連携モデル」として全国でも高い評価を得ています。当日は名簿上だけで82名の参加者があり、保健・医療関係者だけでなく近隣高校生を含めた一般住民参加者も10名以上ありました。これだけの参加者があったのは、それぞれが誘い合い参加した結果であり、この地域の「つながり」を感じることができました。

以下は研究会の流れです。

- 1 断酒会会員による体験発表
 - 1.1 患者の立場から
 - 1.2 患者家族の立場から
- 2 病院での治療の現場から発表
 - 2.1 「専門病棟で治療環境が回復へと繋がった1事例」（こころの医療センターから）
 - 2.2 「アルコール依存症とその家族の感情」（紀南病院から）
 - 2.3 一般参加者は別室で断酒会会員による体験談発表、懇談
- 3 猪野亜郎先生による特別講演「アルコール依存症の診断と介入方法」



参加者の感想では「断酒に成功し状態が良くなった人と接することは、特に病院内勤務者にとってはほとんど無く、断酒の効果を知る貴重な経験だった」とのことであり、ある高校生は「知り合いに飲みすぎる人がいるが、断酒会会員の体験談に似ている」とアルコール依存症が身近な問題であることを認識していたようです。講師の猪野先生は「アルコール依存症は防げる不幸」であると講演で触れていました。決して意思が弱いからなる病気ではないのです。具体的な介入方法にも触れていただきましたが、大切なことはひとりで抱え込まないで、少しでも病気（アルコール依存症）を理解する仲間を増やし、一緒にやっていく（連携）ことが大事だとも述べてくれました。

この地域でも断酒会を熱心につけてみえる方がいらっしゃいます。家庭訪問をしてくれる保健師さんもあります。見てみぬふりもできるこの病気ですが、勇気を出して相談してみたいかがでしょうか。ひとりで解決できなくても、きっと相談に乗ってくれるはずですよ。

リハビリテーション科

10年前には理学療法士3名・マッサージ師2名だった職場が、いつのまにか紀南病院・きなん苑を合わせると理学療法士9名・作業療法士4名・言語聴覚士2名、計15人の大所帯になってきました。一時期は男性が多い職場でしたが、最近では女性も増え随分雰囲気も変わったのではないかと考えています。

リハビリテーションを取り巻く環境も年々変化しています。10年前は外来通院歴が5年を越すような患者さんがいっぱい、職員が出勤する時間より先にリハビリテーション室の入り口で待っておられ「はやく開けてー」なんてこともありました。現在は入院の急性期の患者さんが主なりハビリテーションの対象になっており、そのような光景も最近ではみられなくなりました。特にここ数年は制度に振り回されているような状況ですが、周辺地域のみなさんにより良いリハビリテーションを継続して提供できるよう、紀南病院⇄きなん苑で協力しながら取り組んでいます。



外来診療担当表

平成20年5月1日現在(予定)

区 分		月	火	水	木	金	
内 科	午前	1診(初診)	杉本 龍亮医師	中川 十夢医師	瀬口 優医師	武田 裕子医師	浦吉 俊輔医師
		2診(初診)					
		3診(再診)	松浦りつ子医長	松浦りつ子医長	西久保公映副院長	瀬口 優医師	杉本 龍亮医師 中川 十夢医師
		4診(再診)	小林 文人医長	浦吉 俊輔医師	松浦りつ子医長	鈴木 光哉医長	關 めぐみ医師
	午後	3診(再診)			鈴木 光哉医長	西久保公映副院長	糖尿病専門外来(月1回)
		4診(再診)		西久保公映副院長		尾辻 典子医師	循環器専門外来(月1回)
外 科	1 診		須崎 真副院長	野口 孝院長	野口 孝院長	須崎 真副院長	
	2 診	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	信岡 祐医師	信岡 祐医師	
整 形 外 科	1 診	植村 和司医長	倉田 竜也医師	植村 和司医長	休 診	倉田 竜也医師	
	2 診	倉田 竜也医師	植村 和司医長	倉田 竜也医師		植村 和司医長	
脳神経外科	1 診					仲尾貢二医師(午後) 種村浩医師(午後)	
眼 科	1 診	山田 敦医長	山田 敦医長	山田 敦医長	山田 敦医長	山田 敦医長	
産 婦 人 科	1 診	葛西 普一医長	川戸 浩明医長	關 義長医長	葛西 普一医長	川戸 浩明医長	
小 児 科	1 診	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長	足立 基医師	鈴木 幹啓医長	
皮 膚 科	1 診	嶋 聡子医長		嶋 聡子医長		嶋 聡子医長	
神 経 内 科	1 診					木田 博隆医師 谷口 彰医師 成田 有吾医師	
泌 尿 器 科	1 診			今村哲也医師(午後)			
耳 鼻 咽 喉 科	1 診	松浦 徹医長	松浦 徹医長	松浦 徹医長	松浦 徹医長	松浦 徹医長	
歯科口腔外科	1 診	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	
備 考	1. 受付時間は午前7時30分～午前11時30分までとなっております。ただし急患については時間外でも受付します。なお当院を初めて受診される患者様及び、診察券をお持ちでない患者様の受付時間は、午前8時からとなります。 2. 神経内科・脳神経外科は現在、新規の患者様をお受けできません。ご了承下さい。 3. 眼科は第1・第3月曜日を休診とさせていただきます。						

新任先生の紹介

整形外科医長

うえむら かすし
植村 和司 先生
4月1日着任



- 略歴 三重中央医療センターより
- 趣味 スキー ゴルフ
- 医師を志した理由 特にありません。
- 医学部に入るには どのようなことが 必要だと思いますか
私自身が30年近く前に入ったので、今の状況はわかりません。
- 抱負 少しでも地域医療に貢献できたらと思います。

外科医師

くまもと こうじ
熊本 幸司 先生
2月1日着任



- 略歴 平成11年に山口大学を卒業し、12年三重第一外科入局。このたび山田赤十字病院から紀南病院へ赴任。
- 趣味 音楽鑑賞 スポーツ観戦
- 医師を志した理由 人の命を救える仕事だから。
- 医学部に入るには どのようなことが 必要だと思いますか
人との和が大事だと思います。
- 抱負 外科なので手術がメインになりますが、勉強させていただきたいと思います。チームワークが大切なので、なんでも言ってくるください。

内科医師

すぎもと りょうすけ
杉本 龍亮 先生
4月1日着任



- 略歴 紀南病院で働くのは2回目です。4年前にも一度お世話になりました。ここに来るまでは、大学病院にて肝臓病を中心に医療をしていました。
- 趣味 ゴルフ パチンコ
- 医師を志した理由 色々な人と一緒にいるのが好きだから。
- 医学部に入るには どのようなことが 必要だと思いますか
人の命を預かる責任感と優しさ。
- 抱負 また紀南病院で働くことになりました。病気に負けずに元気出していきましょう。

内科医師

なかがわ とむ
中川 十夢 先生
4月1日着任



- 略歴 平成18年に自治医科大学を卒業後、山田赤十字病院で2年間の臨床研修を終え、紀南病院に赴任しました。
- 趣味 ドライブ ダイビング
- 医師を志した理由 常に人と関わることができ、さらに世の中の役にも立てる仕事だったから。
- 医学部に入るには どのようなことが 必要だと思いますか
自分自身をしっかり持っていながらも、他人の話にも耳を傾けられる柔軟さ。
- 抱負 少しでも早く地域住民の皆さんの役に立てるよう、日々勉強したいと思います。

内科医師

せぐち まさる
瀬口 優 先生
4月1日着任



- 略歴 自治医大を平成18年に卒業し、済生会松阪総合病院で2年間研修してきました。生まれも育ちも津市です。
- 趣味 ギター スキューバダイビング 空手
- 医師を志した理由 困っている人を助けたかったからです。
- 医学部に入るには どのようなことが 必要だと思いますか
ON・OFFの切り替え(遊びも勉強も大事)
- 抱負 皆様のお役に立てるように頑張ります。